

文・いしむらみどり 絵・すゑのきしげき

もみの木 がっこうの うんどう かい





文・つげしゅんすけ

図・かべあかね じつしゅん

もみの木

がつしゅんすけの

うんどうかい

「ほ、ほくも、いこうしょうを、とりたいたよ、
だけど、いつも、こぼつねが、いちばんだよ」

こだぬきは、かたを、ふるわせて、なきました。

かあさんは、エプロンで、こだぬきの
なみだを、ふいてやりました。

あしたは、もみの木がっこうの、うんどうかいなのです。





「あー、よくぞ、ひりの子だっつて、ママはだめ
様か、このおまもりを、ホケットに、入れておくた
いっとうしようが、とれるぞ」
とうさんは、水いじゅうの、おまもりを、
まっはっくりで、つくってくれました。

こだめきは、げんきいっぱい、いい子でした。
でも、もみの水がっこうでは、こまった子でした。
みんなと、いっしょにすることが、にがなのです。
そんなこだめきのことを、とうさんと、おあさんは、
いつも、いつも、しんばいしました。



「このぬきのことば、もみの木がっこらの
なままだらも、まぐ、わがっぺいしました。
このままだ、こぶっねは、いいです。
「あのさ、わがままで、なまむしだよね」
「うん、すぐに、おぼろわびするよね」



「このぬきのことば、まぐ、わがっぺいしました。
このままだ、こぶっねは、いいです。
「あのさ、わがままで、なまむしだよね」
「うん、すぐに、おぼろわびするよね」





みんなの、いとおりでした。

このめきは、わがままで、きわみやでしたが、

ともだちおもしろい、しんせつな子でした。

でも、うんどうかいの、れんしゅうでは、

まったく、こまった子でした。

かけっこでは、いつも、

いちばんに、なりました。

びりになると、おどろかして、

おどろかしました。これでは、

れんしゅうに、なりません。



たまごがし、きょうそうでは、
たまを、ひとりじめしました。

「みんなで、ころがすんだよ。」
みんなが、さけんでも、こだめきは、
いいはりました。

「ぼく、れんしゅうしてゐんだよ。」
これでは、れんしゅうに、なりませんでした。



ダンスの れんしゅうは、さんざんでした。
みんなが おどろかすと、こたぬきは、
「ほく、やだ、ほく、おどろかさないよ。」
といて、手を うしみに、かくしたのです。
むりに 手をひっぱり、ダンスに、さまじうと、
その手を、ふりはらって、すわりこみました。
これでは、れんしゅうに、なりませんでした。



ふくろう先生は、なにも いませんでした。
ちみの本がところどころ、やぐさくは、おこりのこを、し
たりあいのこを、し、こををけし、こをし、こをし、
その三つを、やぐさくを、こたぬきか、まをれを、
ことばをいでも、ふくろう先生は、いっもどおり、
なにも いませんでした。子どもたちも、
にがれたもで、かいつつするまで、がまらつよく、
まっでいるだけでした。

「ねえ、うんとどうかい、どうなるの？」
みんなは、しんばいで、たまりませんでした。